

優秀賞

一般建築物の部

建築主：千葉商船株式会社

設計：岡建工事株式会社一級建築士事務所

施工：岡建工事株式会社

所在地：香取市佐原イ503番地1

～昭和初期の擬洋風と現代技術の統合による、橋詰の創造的まちなみ再生～

千葉商船ビル



外観

香取市佐原の「重要伝統的建築物群保存地区」の一面に、昭和初期の洋館をモデルにして建替えられた3階建てRC壁式構造の事務所・共同住宅である。この地区には本賞の審査で何度か伺った経緯があるが、伝統的和風木造ではなくRCの擬洋風建築を目指したこのビルは、そのテーマ性故に、我が国における歴史的まちなみ保存のあり方に一石を投じる事例であり、その審査は大変興味深い体験であった。

佐原は川越、栃木と並び称される「三大小江戸」の一つとされ、小野川の両岸に沿って歴史的な街並みが見事に保存されている。そのほぼ中心に架かる香取街道忠敬橋の橋詰にあたる角地が「千葉商船ビル」の敷地である。この地で長年まちづくりに貢献してきた

施主は建築の造詣が深く、縁のあった東京新橋に建築金物の製造老舗が昭和初期に建てた著名な洋風建築をモデルに、その細部の復元を含めた創造的まちなみ保存にチャレンジした。この新

たな取り組みには地区の規定との調整に大変多くの時間が費やされたが、施主の熱意とそれに応えた景観審議会、大学、建設会社、担当自治体等との話し合いとネットワークによって、細部に至る綿密な設計と技の試みが展開された。

その結果、橋詰の角地のまちなみに溶け込んだ、しかし稀有な姿を見せる建築が誕生した。そして、小規模ながら擬洋風建築の優れた伝統技術を継承し実践した設計者や職人たちの献身的な仕事の出来栄は、ここを訪れ眺める人々の心を大変豊かにしてくれる。建築文化として長く、そして丁寧に利用され続けることを切に期待したい。

(岩村 和夫)



1階内観 オーク材の装飾と大理石の床



佐原の大祭